



# 二種混合ワクチン

(ジフテリア・破傷風) ワクチン

No.20

## どんな病気ですか？

### ジフテリア



ジフテリア菌による感染症です。発熱、のどの痛みなどで始まります。のどに白い膜ができたり、首のリンパ節がはれたりします。ジフテリア菌は毒素を出し、この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、心不全や呼吸に必要な筋肉の麻痺などをきたして、重い病気

になる場合があります。かかった人の5～10%が死亡します。

ジフテリアの診断は、患者さんの鼻やのどからジフテリア菌を見つけることです。日本におけるジフテリアの発生は1999年の報告が最後ですが、ワクチンが普及する以前には年間8万人以上の患者さんが発生していました。海外、特に東ヨーロッパや東南アジアなどでは小さな流行がまだ報告されています。ワクチン接種をしなければ、日本でも再び流行しうる病気です。

### 破傷風

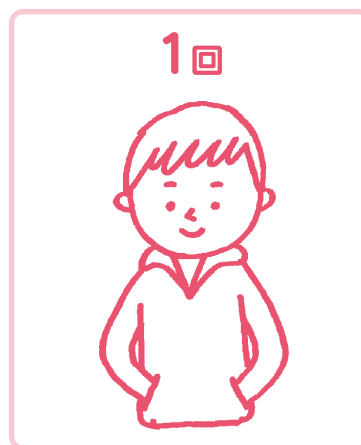
破傷風菌による感染症です。主に傷口から入り込んだ破傷風菌が、毒素を出し、それが、さまざまな神経に作用します。口が開きづらい、あごが固くなるといった症状に始まり、歩きづらい、排尿・排便の障害などを経て、最後には全身の筋肉が固くなり体を弓のように反り返らせたり、息ができなくなります。破傷風は、かかった人の約30%が死亡する非常に重い病気です。



国内では、以前は新生児の発生もみられましたが、近年は高齢者を中心に年間約100人前後の患者さんが発生しています。ワクチンを接種していない子どもが感染したという報告もあります。

## ワクチンをいつ、何回接種しますか？

11～13歳未満に二種混合ワクチンを1回0.1mL接種します。



11～13歳未満の期間

## ワクチンの効果

ジフテリアおよび破傷風に対するワクチン（二種混合、三種混合、四種混合ワクチンなど）を乳幼児期に反復して接種することにより、ほぼすべての人が予防するのに十分な抗体を獲得すると報告されています。これらの効果を持続させるため、二種混合ワクチンを接種します。

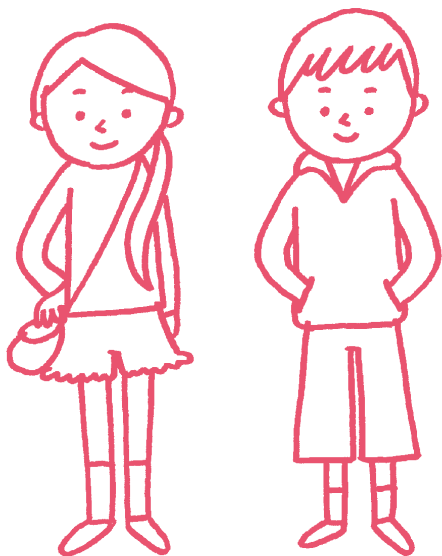
国内の二種混合ワクチンの接種率は70%前後と低いことが問題です。接種後もその効果は10～25年といわれ、10年ごとの追加接種が望ましいとされています。



## 🐣 ワクチンの副反応

副反応としては、局所症状として接種部位に発赤、はれ、痛み、しこりなど、また全身症状として発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、下痢、めまい、関節痛などが認められることがあります。いずれも一時的なもので、通常2～3日で改善します。ただし、しこりは1～2週間残ることがあります。

また、2回以上接種した人は、ときに強い局所反応があらわれることがあります。通常、数日中になくなります。非常にまれ(0.1%未満)ですが、重大な副反応として、アナフィラキシー(重いアレルギー反応)があらわれることがあります。



## 🐣 どのように感染しますか？

### ジフテリア

ジフテリア菌は、患者さんの咳などに含まれ、鼻やのどから感染します。菌をもらってから症状が出るまでの期間は2～7日です。

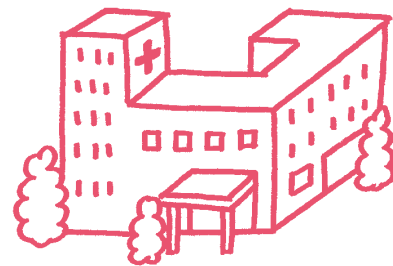


#### 飛沫感染

咳やくしゃみで飛び散った病原体を吸い込んで感染

## 破傷風

破傷風菌は広く土の中において、主に傷口から体に入り感染します。破傷風はどのような場所でも、誰にでも感染することのある病気です。菌をもらってから症状が出るまでの期間は3～21日です。人から人へうつることはありません。



## ♥️ ワクチンが接種できない人は誰ですか？



### 接種を受けることができない、 いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー(重いアレルギー反応)を起こしたことがある場合
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合



### 接種を受けるにあたって注意が必要な人 接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、  
発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や  
全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分に対してアレルギー反応を  
起こすおそれのある人

